

人権教育だより

第72号

発行 長野県教育委員会
 編集 教学指導課生徒指導係
 発行人 馬場澄博
 長野市大字南長野字幅下692-2
 電話 026-235-7436
 F A X 026-235-7495
 Eメール kyogaku@pref.nagano.jp

人権教育の担当が生徒指導係へ

人権教育の担当が生徒指導係へ

社会が豊かになり、また、情報化が進む中で、人権に関わる問題も多様化しております。いじめをはじめとする諸問題、インターネット、携帯電話の普及による新しいタイプの人権侵害は深刻化しております。

学校教育において、これまで以上に児童生徒に対して「自分の大切さと共に他の人の大切さを認める」人権感覚を高め、それを様々な場面で具体的な態度や行動に表すことができる人権教育の大切が増してきております。

また、人権問題は生徒指導上の問題とも密接に関わってきます。生徒指導上の諸問題を未然に防止するためにも、人権教育を基盤とした日頃の生徒指導が大切となってきます。

以上により、今年度より、課内の三つの係に分散していた三名の人権教育の担当者を生徒指導係に配置いたしました。これまで以上に学校人権教育の一層の充実に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

担当者と主な業務内容を紹介致します。

- ・渡辺 貴則(生徒指導係長)[人権教育統括]
- ・櫻井 隆夫(生徒指導係)[人権教育全般]
- ・永原 経明(生徒指導係)[高等学校関係・人権教育だより・作品募集等]
- ・網干 直人(生徒指導係)[義務教育関係・人権教育総合推進地域事業等]

電話 026-235-7436



人権意識の高揚を目指す

ポスター、詩・作文の募集

今年も人権意識の高揚と、様々な人権問題の早期解決を図るために「ポスター、作文・詩」の募集を行います。今年度は、特にいじめ問題をテーマにした作品を中心に募集します。

- 応募部門 (1)ポスターの部(小・中・高別)
 (2)作文 詩(小・高別)

中学生の「作文」については、長野地方法務局主催・長野県教育委員会共催で実施する「全国中学生人権作文コンテスト長野大会」があるため今回は募集しません。

- 締め切り ポスター 10月30日(火)
 作文・詩 11月30日(金)

ポスターは、明るい展望のもてるものとし、図柄は独創性に富んだもの。大きさはB3版。

作文・詩は、題は自由。自分の体験や実践に基づいて述べたもの。

詳細は各校に配布されている要綱で確認してください。

平成19年度 教育課程・学習指導の改善(青本) [人権教育](概要)

人権を尊重する社会を築いていく意欲と実践力を高める人権教育

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権感覚をはぐくむための重点

学校の組織的な取組を

- ・教育活動全体を通じての推進 ・全体計画と年間指導計画の作成 ・人権教育に取り組む体制
 - ・人権尊重の精神に立った学級経営や生徒指導の推進 ・個に応じた学習指導と一人一人の大切さが認められている環境作り ・中立性の確保と個人情報への保護
 - ・普遍的な視点(自尊感情, 生命尊重など)からの取組と, 個別の人権課題に対する取組を推進
- 教職員の人権尊重の理念の理解・体得を

- ・教職員の姿勢そのものが重要である自覚と自らの人権意識を見つめ直す
 - ・課題を背負った子を中核にした集団作り, 厳しい立場にいる者の心の痛みや生き方に共感する
- 家庭・地域との連携及び校種間の連携を

- ・児童生徒が家庭や地域の人々から学び, その取組が身近な大人の啓発に資するような工夫
- ・校種を超えた連携の促進, 授業研究やカリキュラム開発

自主性の尊重や体験的な活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を

- ・児童生徒が主体的に学び, 生活に生かせる学習展開の工夫
- ・体験的な活動を取り入れ, コミュニケーション能力, 共に考えようとする態度, 社会参加への意欲を高める学習展開

効果的な学習教材の選定・開発を

- ・児童生徒の生活の中から課題を掘り起こし, つける力を明確にし, つける力に迫るための教材選定, 手だてを創意工夫
- ・命の大切さに気づく教材, 様々な人権問題に気付く教材, 個別の人権問題を深く考える教材, 自分自身を見つめる教材, コミュニケーション技能を学ぶ教材など, 多様に選定・開発

願う姿の実現に向けた成果と課題

人権教育の全体計画を策定することにより, 全教職員の共通認識と組織的な取組が行われている。つける力を明確にし, 教材の選定・開発が行われている。

普遍的な視点での学習とともに, 現実の人権問題への学習を大切に, 社会への関心や社会参加の意欲を培いたい。

学習場面の自分の振り返りだけでなく, 生活場面の自分を振り返ることができるように。

本年度の学習指導改善の最重点

自ら考え, 感じ, 行動する主体的・実践的な学習を工夫しよう

自尊感情やコミュニケーション能力を培う

人の生き方にふれる

自分の生活や生き方とつなげた学習の振り返り

人権感覚の醸成

児童生徒の自主性を尊重した学習展開の基盤をつくる

- ・異なる意見の存在と価値に気づき, 発表できる温かい集団づくり
- 校種間のつながりを考えた見通しのある年間指導計画を
- ・どの人権課題をどの学年で重点的に扱うか

- ・「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権感覚を持った児童生徒
- ・社会の中にある様々な人権問題をとらえ, 自分の生活や生き方と結びつけて考える児童生徒

いじめを受けた子のケアを考える

いじめを無くすために何をするか、という視点は言うまでもなく大切ですが、一方いじめを受けた子どもの人権を考え、どうサポートするかという視点も重要です。総合教育センターで、生徒指導専門研修教員の研修として、いじめられ自殺を考えるような生徒のサポートについて研究している徳丸洋子氏を講師に「多角的自己表現法」の研修を実施しました。総合教育センター専門主事 原 良通先生にそのレポートをしていただきました。

総合教育センター 専門主事 原 良通

「多角的自己表現法」とは、鹿児島県の「NPOいじめ対策プロジェクト」を立ち上げた徳丸洋子さんが開発した、カウンセリングの一手法です。子どもが感じている人間関係や理想のイメージを色彩や詩で表現しながら、子ども自身の心を整理するものです。

この「多角的自己表現法」について、徳丸さんは「私自身がいじめられた時の経験と心理学的手法を交え、いじめに苦しみ、相談できずにひとりで抱え込んでいる子どもたちの自殺防止を目的にこの手法を開発しました。子どもの人権を第一に考えたこの取り組みを今後、現場でのいじめ対策の一助として活用して頂けますことを願っています。」と話してくれました。



《 研修中の様子 》

具体的にはシートを使用し1時間30分をかけてステップに従い実施します。主な流れは以下のようになります。

自分の今の感情の確認や幸福感の確認、辛い気持ちや理想のイメージを色鉛筆を使って塗る。

自分を取り巻く重要人物やこだわっている事柄についてのイメージを色を塗って表現する。

それに対して理想とするイメージを同じく色で表現する。自分の苦しみを詩として表現する。

希望を表す詩を表現する。苦しめている人物への架空の手紙を書く。保護者への思いを手紙とする。

ここまで進めて、いったん担当者の自己開示やレクレーションを入れ、リラックスを図る。

先に書いた重要人物とこだわりに対して今の相手の感情と自分の感情を色で表現し、はじめのシートに戻って、今の感情や状態の確認を行う。

文章では伝わりにくいのですが、色鉛筆を使って色を塗ったり、詩を書いたりといった作業を一つ一つを丁寧に進めていく中で、子どもの心の整理が付き、状況は変わっていかなくとも自分の感じ方が変化し、心が軽くなります。「表現すること」が心の解放につながったり、つらい思いを目で見える形に表出することで、気持ちが楽になる効果が期待できます。多角的自己表現法を受けた子どもが「心が整理されて強くなった」と感想を記していましたが、実際研修で実施した先生も同様の感想を語ってくれました。

徳丸さんは注意事項として以下のような点を強調しました。

1. 被験者に強要しない。
2. 「万能薬」ではない。
3. 「嘔吐見器」ではない。
4. 施行者を評価するものではない。
5. 結果をありのままに受け止める。
6. 一人の人間として関わる。
7. プライバシーを厳守する。

あくまでカウンセリングマインドで子どもを支えるという視点が必要ということでしょう。

この「多角的自己表現法」が、学校現場でどう活用できるかですが、学級担任より相談室の先生や養護の先生が実施する方がいいのではないかと思います。今後、具体的に導入する為の研究を続けていきたいと考えています。

【参考文献】 徳丸洋子著『君が笑顔になれるまで』 ジアース教育新社

人権教育を基盤とした
魅力ある学校づくり

Part 1

中野市立平野小学校

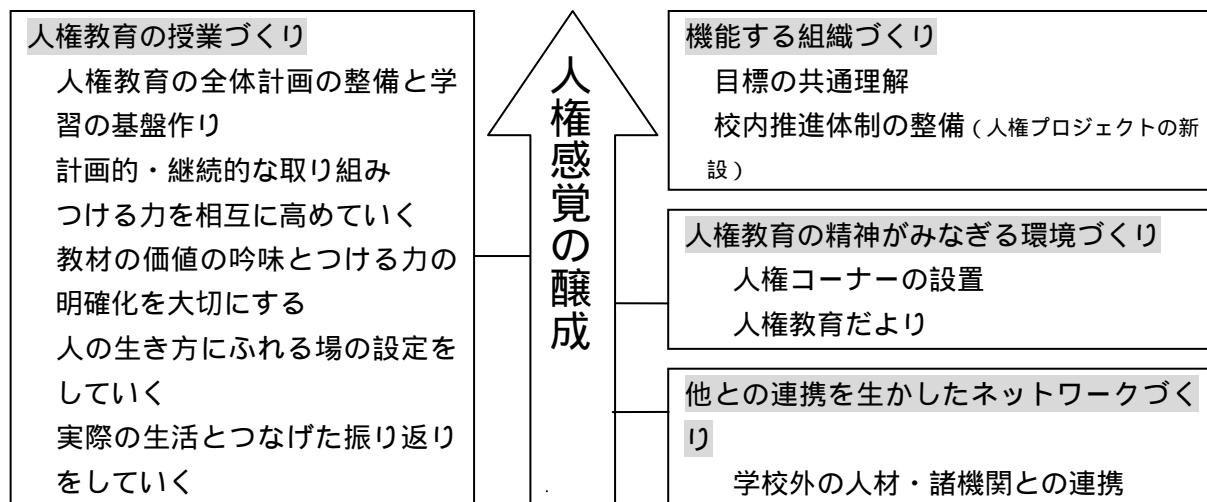
平成17・18年度文部科学省人権教育研究指定校



ふれあいをキーワードに人権教育を生かした学校づくり！

中野市立平野小学校では、『「ふれあいを通して自他の大切さを認め、共に生きようとする実践力のある子ども」～人権教育の日常化を目指した学校づくり～』を研究テーマに2年間にわたって研究をしてきました。「ふれあい」をキーワードに、具体的・継続的に児童の姿を見つめることを大切にして、全教育活動において研究を進めました。

目指す子どもの姿に迫るための学校づくり



〔11月17日(金)研究発表会から〕

1 題材名「友だちはっけん」(2年生)の授業

今まで、エンカウンターなどの体験的な活動を継続して行い、友だちとの関わりを深めてきた子どもたちである。

本時では、自分の得意なことや自分の好きなところなどを書いた「自己紹介カード」を使って、これが誰のカードかを考える「友だちはっけんクイズ」を行った。友だちのことを考え、更には、自分が見つけた友だちのいいところを発表することを通して、友だちのよさを認めたり認められた喜びを感じたりすることができた。振り返りを大切にしなが、継続して体験的な活動をすることで、お互いを認め合う関係を育てることができた。



2 題材名「もっと知りたいT先生、K先生のこと」(5年生)の授業

聴覚障害者のTさんと手話通訳のKさんとの交流を通して、相手の気持ちを考えたり、相手の立場に立って行動したりすることの大切さを考えてきた子どもたちである。

本時では、Kさんが手話の活動を続けていきたいと思うのはなぜだろうかということについて話し合ったり、Kさんの手紙を読んだりすることを通して、Kさんの手話に対する思いを感じることができた。また、自分も交流を通してTさんへの接し方や、手話に対する思いが変わってきたこと

に気づくことができた。継続的な交流が、相手の気持ちを考えた行動や自分の成長を感じることに繋がった。

人権教育指導方法等の在り方について〔第二次とりまとめ〕の趣旨を生かし、今後の人権教育の方向を示して

人権教育を基盤とした 魅力ある学校づくり Part 2

上田市立第二中学校

平成17・18年度文部科学省人権教育研究指定校



一人一人を大切にしたい、人権が尊重される学校・学級づくり ～身近な嫌がらせやいじめ・差別を、自分の問題としてとらえるために～

生徒を肯定的に見つめる先生方

(研究テーマ設定の理由から抜粋)

毎日の学校生活を細かく振り返るために、校内のいじめや差別についてのアンケートを実施すると、そのたびに様々な問題が潜在していることが明らかになる。いじめや嫌がらせを受けた訴えや反省があった。また、冷やかしゃからかい、陰口や悪口もみられた。

こうした反応には、どんな行為が人権を軽視することにあたるかについて一定の理解があり、解決しなくてはならないと考えている姿が読み取れる。そして、自他の行為を人権という視点でとらえなおしていこうというスタンスで指導を積み重ねてきたことが、問題への気づきや解決への思いにつながってきている。

第二中学校には、生徒への共感的理解と自身の実践を問い返す「教師の姿勢」が位置づいていました。生徒の行為をより深く見つけ、その背景に思いを巡らそうとする先生方によって、人権教育を柱にすえた学校づくりがすすめられています。

人権教育の目標

生徒一人一人の人権感覚を磨き、人権問題を自らの課題として解決する意欲と実践力を身につける。

取り組みの重点(18年度)

- ・世の中にある人権問題を学習する際、自分たちの毎日の生活と重ね合わせて考えていく学習指導の工夫。
- ・自己表現力の育成《より開かれた学習集団の育成》
(友との関わり、あたたかな教師のまなざし、自己肯定感の育成)

主題名「私でいい」「あなたでいい」(1年生)

自分史新聞を書き上げる学習(小単元)を通して、自分を見つめ、友を見つめ、周囲の人が自分を理解してくれている喜びを感じていきます。また、年間を通じた学習の積み重ねによって、問題解決の主体を自分に問う姿も育っていました。

クラス内に構築された信頼関係と教師の深く温かなまなざしによって、子どもたちの自己肯定感が豊かに高まり、授業の最終場面の8分間に及ぶ編集後記作成の時間は、静寂の中にも自他をさらに大切にしていこうとする熱き思いが漂うすばらしい時間でした。



自分や学級に対して誇りや自信を膨らませ、動き出す学級集団

主題名「わたし」と向き合う「私」(2年生) ハンセン病と部落差別の事実学ぶ

伊波敏男さんとのかわりや栗生楽泉園の訪問を通して、差別や偏見に憤りを持ち、その学びを発信したいと子どもたちは考えていました。同時に、学級にある日常的問題に対して「このままではいけない」と思いつつも動き出せずにいた子どもたちが、融和運動の「かわいそう」「同情」では差別はなくなると気づいていきます。

本時は、身の回りの事象と類似の資料で「自分だったらどうするのか」「どうやったら解決できるのか」と考え合いました。今の自分と向き合い、資料の登場人物や場面に身の回りの状況を重ねて、自分の思いを語り合いました。



自分の生活や生き方につながる題材展開の工夫

「平成18年度全国中学生人権作文コンテスト県大会」県教育委員会賞の作品を紹介します

「ちやいなマール」

木祖村立木祖中学校 2年

奥原 有佳 さん



高齢者の人って、話すのが遅かったり同じことを何回も言ったり、体がいうことをきかなくて、私が当たり前に行けることさえ人へ手伝ってもらわなくてはできなかったりする。

あなたは高齢者に対してこのような不満をもったことはありませんか？

私は小学校一年から六年の頃(ころ)まで、自分の家には帰らず祖父母の家に帰っていた。「ただいまあ」。私が大きな声で言うのと、

「おかえり」という明るいアルトくらの大ばあちゃんの声が返ってくる。大ばあちゃんというのは私の祖父の母。つまり曾祖母である。家に入ると、大ばあちゃんの前に祖母が漬物を持ってくる。大ばあちゃんは漬物を選んで、あさつて取る。私にはこの行動が気に入らなかつた。大ばあちゃんはいつも色の変わるキャンディー、ちやいなマールを私にくれた。私はそれが大好きだったが、キャンディーをくれる大ばあちゃんの手は、しわだらけで黒くて汚れているようで、ばい菌がついているんじゃないかと思った。

大ばあちゃんが私に話しかけてくることはたくさんあったが、その内容がほとんど勉強のことで、大ばあちゃんが、

「どれ、見してみい。おらが教えてやるでえ」と言うが、私はどうせ分からないのに何言っ

てんの？と思って、何だか気持ちがイライラした。勉強が終わると大ばあちゃんは、「ヤクルト買ってきてくれんかねえ？」と言って、私は歩いて店に行った。その時も、何で私が年寄りのいいなりになってんだらう、と不満を感じながらヤクルトを買って、家に戻った。私は、母が迎えに来る六時くらいまでテレビを見る。テレビをつけると、

「おらあ、相撲が見たいからNHKにしてくれんかねえ」と私はこれも気に入らなかつた。相撲を見て何が楽しいの？だってテレビを見てもいいって祖母が言ったのは、私に言ったんでしょ？そう思いながらも私はチャンネルをまわす。相撲を見てみると六時になって母が迎えに来た。私は最後まで自分が見たいテレビを見ることができずに気持ちがイラ立ったまま、車に乗った。もう大ばあちゃんといるときき使われるし、私がやりたいこととさえできない。大ばあちゃんへの不満は私の心におさまりきれないくらいにたくさんあった。

たまに、大ばあちゃんの様子を社協の人が見にくる。私は、なんでそんなに自然な笑顔で接することができるのかが不思議だった。

夏休みに入り、明日はいよいよ家族で温水プールに行く日だ。とても楽しみにしていた。大ばあちゃんは病院に十日前くらいから

入院していた。八月五日、私は朝、母と病院に行つて大ばあちゃんに会った。大ばあちゃんは私と母が来るとニコニコ顔になった。私は看護婦さんにたのまれて、大ばあちゃんの口に水を入れた。私は大ばあちゃんが入院していると聞いて、びつくりしてちよつと不安になったが、病院に行つてみて元氣そうな大ばあちゃんを見ると安心した。その後、私は母の職場に行つた。夕方になって母の携帯に連絡が入った。母は、

「あのね、大ばあちゃんが亡くなったって。私は地面につき落とされるような気分を味わった。大ばあちゃんが死んじゃったの？朝、あんなに元氣だったのに・・・だって私が大ばあちゃんの口に水をいれたんだよ・・・お葬式。大ばあちゃんが亡くなったので家族で行く温水プールの計画はなくなつた。もう、そんなことはどうでもいい。お葬式が済んだ後でも、私はまだ大ばあちゃんが死んだなんて信じられなかつた。

「ただいまあ」。私が大きな声で言っても、「おかえり」は返ってこない。家に入って、大ばあちゃんがいつもくれたちやいなマールももうもらえない。もうヤクルトを買つて来てと言われないし、テレビは自分の好きな番組が見られる。大ばあちゃんがいなくなつたことで、私はおばあちゃんの良いなり



にならなくてすむ。でも、今思えばキャンディをくれた大ばあちゃんの手は温かくてぬくもりがあった。ヤクルトを買いに行く時だつて、レジの人にお金を払う練習のためだつたかもしれない。私は一方的に大ばあちゃんに不満をいだいていたが、大ばあちゃんは逆に私のことをいつも思っていてくれた。そう思うと私はすごく悲しくなつて心の中で泣いた。大ばあちゃんに不満をいだいていたことが情けなくなつた。私は高齢者に、さまざまな不満をいだいていたが、今は違う。大ばあちゃんのことを通して、私は社協の方々のように高齢者に対して笑顔で接していきたいと思つている。

母さんとお店に行くときに、ちやいなまーブルがある。それを見ると、私は大ばあちゃんのことを思い出す。今は天国で私のことを見守っていてくれるかなあ？

大ばあちゃん、私に高齢者への思いがまちがつていたことを教えてくれて、ありがとう。

平成18年度

人権意識の高揚を目指すポスター・作文の審査結果

【 応募状況・審査結果 】

今年度ポスターは103点、作文・詩は50点の応募がありました。小・中・高等学校別の応募状況は、入選者一覧は下記の通りです。ご応募いただいた学校、児童生徒の皆さんに感謝申し上げます。

なお、中学生の作文については、長野地方法務局主催・長野県教育委員会共催で実施した「全国中学生人権作文コンテスト長野県大会」において12,721点の応募があり、木祖村立木祖中学校2年生奥原有住さんの「ちやいなまーブル」が長野県教育委員会賞に選ばれました。

応募状況(点数)

校種	小学校	中学校	高等学校	合計
ポスター	69	12	22	103
作文・詩	48	12,721	2	12,771
合計	117	12	24	153



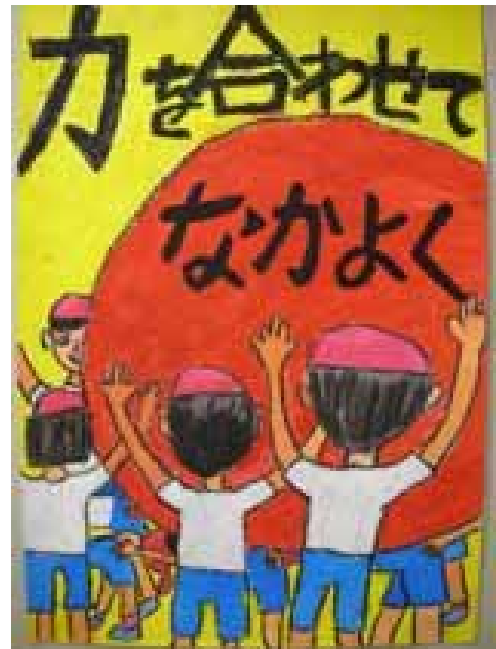
賞	ポスターの部	賞	作文の部
最優秀賞	細萱航平(野沢中学校 2年)	優良	伊藤さえ(大町東小学校 6年)
優秀賞	高橋真紀子(須坂小学校 1年)	佳作	吉田彩美(田中小学校 3年)
	尾崎仁美(神川小学校 3年)		澤田那奈(美麻小学校 6年)
	百瀬結希(山辺中学校 3年)		野澤あかね(大町北高等学校 2年)
	黒田成美(木曾山林高校 3年)		久保田悠里(長野女子高等学校 2年)



最優秀賞
細萱航平(野沢中学校 2年)



優秀賞 高橋真紀子 (須坂小学校 1年)



優秀賞 尾崎仁美 (神川小学校 3年)



優秀賞 百瀬結希 (山辺中学校 3年)



優秀賞 黒田成美 (木曽山林高校 3年)